



2013年2月15日発行



今回の紙面から（ページと内容）

1. 会長挨拶
2. 第6回国際春季フォーラム案内
第31回大会案内
(Student) Workshopの企画募集
理事会・評議員会より
3. 編集委員会より
4. 大会運営委員会より
6. 広報委員会より
学会各賞選考結果報告
7. 日本英語学会2012年度収支中間報告書
日本英語学会賞と日本英語学会新人
賞の募集
事務局より

会長挨拶

30周年記念大会挨拶と学会の新体制

会長 稲田俊明

日本英語学会は、1983年に創立記念大会を開催して以来、30年間、英語学と言語理論の発展に貢献して来ました。英語学や言語研究を取り巻く厳しい研究環境の変化の中で、本学会が優れた英語学分野の基盤的研究と先端的な言語理論研究を行い、大きな成果を上げながら発展をつづけ、本年30周年の節目の大会を迎えたことを会員の皆様と共に喜びたいと思います。

学会創設以来、11月の秋の大会を東京とそれ以外の地域で交互に開催してきましたが、2008年4月より国際春季フォーラムを加えて開催することになりました。また、2012年より韓国英語学会とも交流協定を締結して、本学会の春季フォーラムと韓国学会への相互の招聘や学会誌への論文掲載を含む交流を始め、更なる発展の一步を踏み出しました。今後は、日本国内の関連学会との連携のみならず、海外の英語学や言語理論に関係する諸学会とも交流を進め、更なる発展を図る必要があります。

学会の発展と活性化にとって、国際連携の推進と共に、若手研究者の育成・支援は最重要課題で

あります。ここ数年、学会奨励賞、新人賞、学会賞（論文）などの顕彰制度を見直した結果、会員に対する支援体制が目に見える形で成果を上げ始めています。しかし未だ十分とは言えません。会員の皆様の学会機関紙への投稿と同時に、指導されている大学院生や若手研究者にも積極的に投稿を奨励していただくようお願いいたします。

本学会の現状については、優れた研究により言語研究の発展に大いに貢献している一方、憂慮すべき課題も浮かび上がっています。科研費の申請において、10年前に言語学分野に英語学細目が新設されましたが、他の関連領域からの申請に比べて、この細目における申請件数が期待されたほど増加していません。これは単に研究費の獲得の問題に留まらず、若手研究者の帰属意識にも関連した問題で、今後の学会活動にも波及する課題でもあります。英語学や言語理論研究に携わる若手研究者が英語学細目においても積極的に応募し、学会全体が実績を上げていく必要があります。

記念大会の開催にあたっては、多くの関係者の皆様にご尽力をいただきました。記念事業WGの米山三明理事（発足時）はじめ、大庭幸男、福地肇、大堀壽夫、菊地 朗、藤田耕司、西岡宣明の各委員には、企画段階から長い間お世話いただきました。公開特別シンポジウムと特別ワークショップは、大津由紀雄、藤田耕司、福井直樹、大堀壽夫の各講師の先生のご尽力のお蔭で、大勢の参加者を得て盛会裏に終えることができました。また、特別招聘講師のLyle Jenkins教授、William Croft教授、Cedric Boeckx教授に、この機会に改めてお礼申し上げます。最後になりましたが、井上逸兵先生はじめ開催校の慶應義塾大学の関係者各位のご協力に心より深く感謝申し上げます。

本大会が充実した記念大会となり、30周年を機に、日本英語学会が更なる発展を遂げますことを祈念し、挨拶といたします。（記念大会挨拶）

昨年12月に行われた会長選挙において、新たに大庭幸男会長（大阪大学）が選出され、4月より新体制により運営されます。日本英語学会の発展のために会員の皆様の変わらぬご支援とご協力をお願いいたします。

第6回国際春季フォーラムのご案内

第6回国際春季フォーラムは次の通り開催されます。

日時：2013年4月27日(土)・28日(日)

場所：東京大学本郷キャンパス

(〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1)

詳細については、同封のプログラムをご覧ください。

第31回大会のご案内

第31回大会は次のとおり開催される予定です。

日時：2013年11月9日(土)・10日(日)

場所：福岡大学

(〒814-0180 福岡市城南区七隈8-19-1)

会員の方は奮って研究発表にご応募下さい。応募締め切りは4月1日(月)24時(必着)です。応募の際は、学会ホームページ「研究発表応募規定」欄(<http://elsj.kaitakusha.co.jp/kenkyuha.html>)掲載の同規定をご確認ください。2013年より応募規定が一部改定されておりますので、ご留意のうえ、各事項を遵守下さいますようお願いいたします。そのうえで、同規定指定のアドレス宛に、発表内容と研究発表応募用紙(excelファイル)を締切り日厳守にて送信ください。

第31回大会においても「親と子の部屋」を設置いたします。詳細は、今後学会ホームページや7月発行予定のニューズレターでご案内いたします。

(Student) Workshop の企画募集

日本英語学会では、会員の自主的な企画・運営により、特定のテーマに関する発表と自由な討論をしていただく場として、ワークショップ/スチューデント・ワークショップ企画を例年募集しています。第31回大会では、11月9日(土)の午前9時30分から11時45分までをワークショップ/スチューデント・ワークショップにあてる予定です。

企画・発表をご希望の方は、学会ホームページ「秋季大会ワークショップ」欄(http://elsj.kaitakusha.co.jp/elsj_workshop.html)掲載のワークショップ企画募集案内をご確認のうえ、3月31日(日)24時までに必着にて、同案内指定のアドレス宛に企画書とワークショップ応募用紙(excelファイル)

ル)を送信ください。

理事会・評議員会より

○ 会計

2012年11月9日に開催されました第65回理事会と第30回評議員会において、日本英語学会2012年度収支中間報告が承認されました。「日本英語学会2012年度収支中間報告書」は、7ページに掲載されておりますので、ご覧ください。

○ 役員の変動(含、選挙結果報告)

・会長(新任)

任期満了に伴う会長選挙が郵送による投票で行われ、選挙管理委員(外池滋生氏と今西典子氏)による開票(2012年12月22日(土)東京大学本郷キャンパスで実施)の結果、大庭幸男氏(大阪大学)が会長に選出されました。任期は、2013年4月1日から2015年3月31日までの2年間です。

・顧問(新任)

中村 捷氏(東洋英和女学院大学)が、2012年12月1日付けで顧問に就任されました。

・大会運営委員長(退任)

大堀壽夫氏(東京大学)が2012年12月14日付けで退任されました。

・大会運営委員長(新任)

大名 力氏(名古屋大学)が2012年12月15日付けで大会運営委員長に就任されました。任期は1年間です。

○ 2013年4月からの事務局

大庭幸男氏の会長就任にともない、現事務局員は2013年3月31日付で退任し、2013年4月1日より、新たに事務局が構成されます。

諸般の事情により、現事務局長が8月末まで留任し、9月1日より、岡田禎之新事務局長に引き継ぎます。

事務局の構成は以下ようになります。

事務局長(2013年8月31日まで)

西岡宣明氏(九州大学)

事務局長補佐(2013年8月31日まで)、

事務局長(2013年9月1日より)

岡田禎之氏(大阪大学)

編集委員会・理事会担当書記

田中裕幸氏(関西学院大学)

岩崎真哉氏(大阪国際大学)

大会運営委員会・広報委員会・評議員会担当書記
南 佑亮氏 (神戸女子大学)
財務・国際春季フォーラム担当書記
吉本真由美氏 (大阪大学)

○ **ELSOK との交流について**

2013年7月3日～6日に開催されます韓国英語学会 (ELSOK) 主催の国際学会 (2013 International Conference on English Linguistics) で、日本英語学会から外池滋生氏 (青山学院大学) と田中智之氏 (名古屋大学) の招聘発表が行われる予定です。一般発表応募募集に関しては、<http://elsj.kaitakusha.co.jp/2013%20ELSOK%20International%20Conf.pdf> をご参照ください。また、第6回国際春季フォーラムにはELSOKからGwang-Yoon Goh氏 (Yonsei University) と Kwang-sup Kim 氏 (Hankuk University of Foreign Studies) をお招きいたします。同封のプログラムをご覧ください。

○ **訃報**

本学会の評議員の青山 隆先生 (関西大学) が2012年9月23日に逝去されました。また、日本英語学会創設期に理事をおつとめいただいた荒木一雄先生 (名古屋大学名誉教授) が2013年1月17日に逝去されました。日本英語学会へのご貢献に感謝するとともにご冥福をお祈りいたします。

編集委員会より

◇ **English Linguistics 第29巻2号 (2012年秋号) の査読結果について**

EL 第29巻2号に投稿された論文の審査結果は以下の表の通りです。

	応募数	採用	不採用	取り下げ	審査中
AR	9	3	3	1	2*
BA	1	0	1	0	0
N&D	4	3	1	0	0
RA	2	2	0	0	0
Review	13	12	1	0	0
4ヶ月書き直し					
AR	1	1	0	0	0
BA	1	1	0	0	0
合計	31	22	6	1	2

表には、一般論文 (Article 9編 (Syntax 5, Syntax/Semantics 1, Semantics/Syntax 1, Cognitive Lin-

guistics 1, Historical Linguistics 1)、Brief Article 1編 (Semantics 1)、Notes & Discussion 4編 (Syntax 2, Syntax/Semantics 1, Semantics 1) の計14編) に加え、従憑による Review および Review Article も含まれています。なお、「審査中」とあるARの2編 (4ヶ月書き直し次号送り分) の最終結果は、下記のEL第30巻1号の審査結果に反映されています。また、*の2編のうち1編は、再投稿時に Brief Article へ部門変更となりました。

◇ **English Linguistics 第30巻1号 (2013年春号) の応募論文の査読結果について**

2012年9月20日締め切りでEL第30巻1号に投稿された一般論文の総数は14編で、その投稿部門と投稿分野の内訳は、Article 7編 (Morphology 1, Syntax 4, Syntax/Semantics 1, Semantics 1)、Brief Article 3編 (Syntax 1, Semantics 1, Historical Linguistics/Syntax 1)、N&D 4編 (Syntax 2, Semantics/Morphology 1, Semantics 1) でした。

以下の表は、従憑による Review 9編および Review Article 1編とEL29巻2号に応募されて「4ヶ月書き直し」と判定され、今号に再投稿された論文2編も含めたEL30巻1号 (春号) の審査結果です。

	応募数	採用	不採用	取り下げ	審査中
AR	7	3	3	0	1
BA	3	1	2	0	0
N&D	4	2	2	0	0
RA	1	1	0	0	0
Review	9	8	1	0	0
4ヶ月書き直し					
AR	1	1	0	0	0
BA	1	1	0	0	0
合計	26	17	8	0	1

なお、EL30巻1号には、特別企画2011「特集テーマ: Distribution of Nominal Elements across Categories and Their Interpretation」のもとで一括投稿された Brief Article 4編と Introduction が掲載される予定です。また、特別企画招聘論文1編も掲載予定です。

◇ **English Linguistics 第30巻2号 (2013年秋号) への投稿について**

2013年12月発行のEL第30巻2号 (秋号) の原稿締切は、2013年4月1日 (月) 24時 (必着) です。

応募される方は、学会ホームページに記載されている投稿規定及び書式に関する注意事項を通読され、最新版の規定に則って作成してネイティブ・チェックを受けた原稿をご投稿下さいますようお願い申し上げます。

◇ 「特別企画 2012：特集テーマによる一括投稿論文」の事前審査への応募について

「特別企画 2012：特集テーマによる一括投稿論文」の公募は 2012 年 12 月 15 日に締め切れ、事前審査に対して 1 件の応募があり、現在審査中です。

なお、「特別企画 2013：特集テーマによる一括投稿論文」の公募については、2013 年度初めに、学会ホームページで案内を行う予定です。

◇ 2012 年度 EL 研究奨励賞について

EL 第 27 巻より、*English Linguistics* に掲載された論文 (AR と BA) で優れたものに「*English Linguistics* 研究奨励賞」を授与することが決定されましたが、2012 年度は、2011 年 9 月 20 日締切の EL 第 29 巻 1 号 (2012 年 6 月刊行済み) と 2012 年 4 月 1 日締切の EL 第 29 巻 2 号に投稿され、すでに採用となった AR6 編、BA1 編合わせて 7 編について、先ず、分野別 1 次審査を行いました。審査対象となった論文の分野は、Syntax 3 編、Syntax/Second Language Acquisition 1 編、Semantics/Syntax 1 編、Pragmatics 1 編、Historical Linguistics 1 編です。1 次審査結果を踏まえ、EL 研究奨励賞候補論文を 4 編に絞り込み、現在「最終選考委員会」で、最終選考中です。最終選考で決定された 2012 年度「EL 研究奨励賞」は、2013 年 3 月中に受賞者にお知らせします。受賞論文の執筆者は、EL に投稿した時の年齢 (あるいは研究歴) に即して、2013 年度の日本英語学会賞 (論文) と日本英語学会新人賞への応募の有資格者となります。

大会運営委員会より

□ 大会運営委員会の構成

昨年 12 月より大会運営委員会の構成は次のようになりました。

(委員長) 大名 力氏

(副委員長) 丸田忠雄氏

(委員) 島 越郎氏 (国際春季フォーラム実行委員長)、菅原真理子氏、中西公子氏、新沼史和氏、土橋善仁氏、本多 啓氏 (国際春季フォー

ラム副実行委員長)、松本マスマ氏、村田和代氏 [以上留任]、小野 創氏、金澤俊吾氏、高橋英光氏、花崎美紀氏、柳 朋宏氏 [以上新任]

□ 第 31 回大会シンポジウム企画について

現在準備が進行中です。詳しい内容は『え〜ごがく』59 号でお知らせいたします。

□ JELS 30 について

JELS 30 は、現在大会運営委員会にて編集中です。全会員に 3 月末にお届けする予定です。

□ 第 30 回記念大会の報告

第 30 回記念大会は、2012 年 11 月 10 日 (土)・11 日 (日) の両日、慶應義塾大学三田キャンパスにて開催されました。本大会では、公開特別シンポジウム 1 件、特別ワークショップ 3 件、研究発表 37 件、ワークショップ 4 件、スチューデント・ワークショップ 2 件が行われました。大会 2 日間で 620 名の参加者があり、盛会裏に終えることができました。今回も各出版社から書籍の展示をしていただき、本大会では 23 社の展示がありました。大会運営を支えて下さった開催校の先生方、大会運営委員の先生方、参加された会員諸氏のご協力に対して、心より御礼申し上げます。また、今回も大会運営に関する貴重なご意見を多数いただきました。真にありがとうございました。今後の大会運営の参考にさせていただきます。

□ 研究発表応募規定の改定について

11 月の秋季本大会、および 4 月の国際春季フォーラムの研究発表応募規定が次のように改定されました。

(和文)

【旧】

2. 内容は当該大会時点で未発表のものに限る。また、他学会の発表に応募中のもの、他学会で発表が予定されているもの、*English Linguistics* あるいは他学会誌に応募中のもの、掲載が予定されているものを本研究発表に重複して申し込むことはできない。

【新】

2. 内容は当該大会時点で未発表のものに限る。また、他学会の発表に応募中のもの、他学会で発表が予定されているもの、*English Linguistics* あるいは他学会誌に応募中のもの、掲

載が予定されているものを本研究発表に重複して申し込むことはできない。個人研究発表の応募については（シンポジウム、ワークショップを除き）、1人につき応募可能な件数は2件までとする。ただし、2件のうちファーストオーサー分は1件のみ応募可能である。

(英文)

【旧】

2. Only papers which remain unpublished at the time of the presentation may be accepted. Papers concurrently submitted to *English Linguistics*, other journals, or other conferences will not be considered.

【新】

2. Only papers which remain unpublished at the time of the presentation may be accepted. Papers concurrently submitted to *English Linguistics*, other journals, or other conferences will not be considered. An individual may submit a maximum of two papers, but can be the first author of only one of them. (As for the papers for a symposium or workshop, they are excluded from the count.)

□ 「大会資料」・ *Conference Handbook* ・ *JELS* 原稿作成上の注意の変更について

上記3つの原稿作成上の注意が次のように変更されました。

「大会資料」原稿作成上の注意

【旧】

(1)-② まず発表題名を書き、次の行に氏名を明記し所属を（ ）に入れて示す。所属は「〇〇大学」とのみ記して職名（教授、助教授など）は書かない。非常勤講師の場合は、所属は一つのみとし、「〇〇大学（非常勤）」と明記する。大学院生の場合は「〇〇大学院」、日本学術振興会や大学等の研究員も、所属は一つのみとし、「日本学術振興会特別研究員」「〇〇大学研究員」のように書く。要旨が和文の場合は日本人発表者名ならびに国内機関名は日本語で、海外の機関名は英語（または原語）で表記する。英文の場合は氏名、所属とも英語（原語）で表記する。

(1)-③ 英語で発表を行う場合には、タイトルの右側に「(E)」と記す。

【新】

(1)-② 日本語による口頭発表は日本語表記の

発表題名とし、英語による口頭発表は英語表記の発表題名とする。

(1)-③ まず発表題名を書き、次の行に氏名を明記し所属を（ ）に入れて示す。所属は「〇〇大学」とのみ記して職名（教授、准教授など）は書かない。非常勤講師の場合は、所属は一つのみとし、「〇〇大学（非常勤）」と明記する。大学院生の場合は「〇〇大学大学院」、日本学術振興会や大学等の研究員も、所属は一つのみとし、「日本学術振興会特別研究員」「〇〇大学研究員」のように書く。要旨が和文の場合は日本人発表者名ならびに国内機関名は日本語で、海外の機関名は英語（または原語）で表記する。英文の場合は氏名、所属とも英語（原語）で表記する。

~~(1)-③~~ 英語で発表を行う場合には、タイトルの右側に「(E)」と記す。(削除)

Conference Handbook 原稿作成上の注意

【旧】

(3)-③ 発表題名が和文の場合には、英語の題名を（ ）内に併記する。

(3)-④ 和文の場合には、氏名と所属の英語（または原語）表記を（ ）内に併記する。

(3)-⑤ 英語で発表を行う場合には、発表題名の右端に「(E)」と記す。

【新】

(3)-③ 日本語で発表を行う場合は、発表題名、氏名、所属は日本語で表記し、発表題名には英語の題名を、氏名、所属には英語（または原語）の表記を（ ）内に併記する。

(3)-④ 英語で発表を行う場合には、発表題名は英語で、氏名、所属は英語（または原語）で表記する。

~~(3)-⑤~~ 英語で発表を行う場合には、発表題名の右端に「(E)」と記す。(削除)

JELS 原稿作成上の注意

【旧】

(3)-② 言語は日本語、英語のどちらも使用可能であるが、英文原稿には英文タイトルを、和文原稿には和文タイトルをつけること。和文原稿では、著者名と所属機関名の横にそれぞれの英語（または原語）表記を、また和文タイトルの下に英文タイトルを、それぞれ（ ）に入れて示す。英語の論文の場合に

は、必ず、母語話者のチェックを受ける。発表時のタイトルからの変更は一切認めない(厳守)。なお、Spring Forumでの発表の場合は、英語原稿のみ受け付ける。

【新】

(3)-② 言語は日本語、英語のどちらも使用可能であるが、英文原稿には英文タイトルを、和文原稿には和文タイトルをつけること。和文原稿では、著者名と所属機関名の横にそれぞれの英語(または原語)表記を、また和文タイトルの下に英文タイトルを、それぞれ()に入れて示す。英語の論文の場合には、必ず、母語話者のチェックを受ける。発表時のタイトルからの変更は一切認めないが(厳守)、日本語による口頭発表でも Conference Handbook に記した英文タイトルを使用すれば、英文原稿を提出できる。なお、Spring Forumでの発表の場合は、英文原稿のみ受け付ける。

広報委員会より

◇ English Linguistics のバックナンバーのアーカイブ化について

現在、English Linguistics (EL) は、26 巻 1 号(2009)以降のアーカイブ化が進行中です。それ以前のバックナンバーは、Journal@rchive (http://www.journalarchive.jst.go.jp/japanese/jnltop_ja.php?cdjournal=elsj1984)にて公開しております。どうぞご利用ください。

ELの一般公開は、これまで刊行後4年経過したものに限られておりましたが、今後は2年経過すれば公開可能となりました。また、2013年度からELは紙媒体とともに電子媒体による閲覧サービス(会員のみ)も可能になります。こちらも、どうぞご利用ください。

学会各賞選考結果報告

○ 学会賞委員会より

2012年度学会賞選考結果報告

日本英語学会賞は昨年度より学会賞(著書)、学会賞(論文)、新人賞の3部門体制で応募・審査を行っています。今年度の選考は、2012年度学会賞委員会(廣瀬幸生(委員長)、高見健一(副委員長)、伊藤たかね(第15期編集委員会委員長)、加

賀信広(第15期編集委員会副委員長))と英語学会事務局(西岡宣明(事務局長))の運営責任のもと実施されました。2012年4月1日から5月31日の応募期間内に、学会賞(著書)と学会賞(論文)には応募がありませんでしたが、新人賞には、2011年度EL研究奨励賞受賞論文1件が応募されました。

新人賞応募論文について、審査期間を6月初旬から8月31日とし、5名の委員からなる最終選考委員会において厳正な審査が行われました。2012年度学会賞委員会は、9月初旬に、最終選考委員から提出された総合評価と講評を判定基準に基づきとりまとめました。その結果、2012年度新人賞は、渡辺拓人氏(大阪大学大学院)の、EL28巻1号に掲載された“On the Development of the Immediate Future Use of *Be About To* in the History of English with Special Reference to Late Modern English”に授与することが決定されました。選考結果は2012年11月10日(土)に開催された日本英語学会第30回大会の総会において報告され、そこで2012年度新人賞が受賞者に授与されました。なお、選考委員を務めていただいた方々の氏名はEL30巻1号に掲載される学会賞委員会報告に記載され公表されます。

新人賞受賞論文の概要と評価は以下のとおりです。

[受賞論文の概要と評価]

“On the Development of the Immediate Future Use of *Be About To* in the History of English with Special Reference to Late Modern English”は、英語のbe about toが近接未来を表す用法を獲得するに至る歴史的变化を文法化という観点から考察した研究である。OEDならびに独自のコーパスを駆使して、中英語期から後期近代英語期におけるbe about toの文法化のプロセスを、intentionからfutureへの意味変化として捉えられることを実証的に解明しようと試みており、その結果、特に、be about toが近接未来の用法を獲得した時期は19世紀初頭であり、さらに、その変化には出現頻度の急激な増加が深く関与していることを突き止めた点が高く評価された。Be about toの文法化プロセスをさらに一層明確にするには、intentionからfutureというだけでなく、aboutが本来もっていたと考えられる意味の究明や、aboutには述語的性質が保たれているかなどの統語論的観点からの考察も必要だろうとの意見も出された。

○ 特別賞選考委員会より

本年度の日本英語学会特別賞は故宇賀治正朋氏（東京学芸大学名誉教授）に決定した。宇賀治氏は、歴史英語学の分野、特に、初期近代英語の統語論に関する数多くのすぐれた研究業績により、国内外のこの分野における研究の進展に大きく寄与した。また、日本英語学会では会長、顧問を務めるとともに、他学会においても理事、顧問、編集委員長などを務め、日本英語学会のみならず他学会の発展のため献身的に尽力した。さらに、東京教育大学、東京学芸大学で学生を教育指導し、財界、学界、教育界等において、現在活躍中の人材を多く育成してきた。宇賀治氏のこうした多岐にわたる貢献が高く評価されたものである。

日本英語学会2012年度収支中間報告書

2012年11月1日

日本英語学会会長

稲田俊明

収入	¥15,564,903
支出	¥6,136,392
	¥9,428,511

【収入内訳】

2011年度より繰越	¥12,584,020
会費	¥748,160
大会参加費（春）	¥212,000
科研費	¥900,000
JELS 購入代金	¥2,350
利息	¥673
雑収入	¥70,000
寄付	¥1,047,700
合計①	¥15,564,903

【支出内訳】

EL 刊行費	¥1,505,133
NL 等印刷費	¥45,000
業務委託費関係	¥1,890,144
事務委託費	¥779,207
発送費	¥1,110,937
大会関係費	¥839,660
印刷費	¥108,140
運営費	¥441,520
謝金	¥290,000

JELS 関係費	¥0
委員会関係費	¥714,807
旅費	¥648,100
会議費	¥66,707
事務局関係費	¥1,091,648
賃貸料	¥0
人件費	¥964,620
通信費	¥121,788
消耗品費	¥0
謝金	¥0
交通費	¥5,240
資料コピー費	¥0
その他	¥0
新人賞・特別賞費	¥0
協賛学会への助成	¥50,000
特別事業費への繰り入れ	¥0
予備費	¥0
合計②	¥6,136,392

日本英語学会賞と日本英語学会新人賞の募集

2013年度の日本英語学会賞（著書）、日本英語学会賞（論文）、日本英語学会新人賞の応募方法と応募期間は以下のとおりです。

- ・応募方法：必要な書類を日本英語学会ホームページよりダウンロードし、必要事項を記入のうえ下記の指定メールアドレスに送信してください。日本英語学会賞（著書）：award-b-obo@kaitakusha.co.jp
日本英語学会賞（論文）および日本英語学会新人賞：award-a-obo@kaitakusha.co.jp
- ・応募期間：2013年4月1日より5月31日まで
- ・その他：日本英語学会のホームページにあります応募規定を熟読のうえご応募ください。不明の点は事務局あて（elsj-info@kaitakusha.co.jp）Eメールにてご連絡ください。

事務局より

○ 会費納入のお願い

会費未納の方は、学会支援機構から送られました振込用紙で納入して下さいますようお願いいたします。2年間滞納されますと、会員規定第3条第4項により、自動的に退会扱いになりますので、ご注意ください。

○ 学生会員登録について

2013年度に学生会員として登録(2012年度からの継続を含む)を希望される方は、以下の要領でお申し出ください。申告期間の終了後に2013年度の会員種別を確定し、会費請求をいたします。申告期間内にお申し出がない場合には、通常会員として会費請求がなされますので、ご注意ください。

- 申告資格：次の①もしくは②の条件を満たす会員
- ①大学など学校の「学生」の資格をもつ会員。
- ②研究生・聴講生・専任の勤務を持たない大学院修了者、および外国の大学の日本校の学生。
- 申告期間：2013年4月1日より4月25日(必着)
- 申告方法：会員番号・氏名・4月以降に在籍する学校の名称を記した用紙に、4月以降に学生であることを証明する以下の(1)から(4)のいずれかの書類を添付し、事務局宛(宛先は奥付参照)
「学生会員登録希望」とかならず朱書きのうえ、郵送してください。

- (1) 在学する学校の発行する在学証明書
- (2) 学生証のコピー
- (3) 進学する学校・課程の合格通知書のコピー
- (4) (元)指導教員(所属明記)の署名(捺印)と証明の言葉

専任の勤務先を持たない大学院修了者は、(4)の方法により書類を提出してください。申告されたのちに変更が生じた場合や不明な点がある場合には、事務局(elsj-info@kaitakusha.co.jp)にご連絡ください。

○ ELへの論文投稿に関するお願い

ELに論文を投稿される際には、日本英語学会ホームページに掲載されております投稿規定をよくお読みいただき、規定を遵守したうえで投稿されるようお願いいたします。

編集委員会あるいは開拓社宛に投稿・通知する場合には、メールの件名およびメール本文には日本英語学会のホームページの「EL投稿規定」の書式見本からリンクされている「投稿論文掲載までの手順案内」の表で指定されている情報を必ず明記ください。開拓社から送られる自動応答の着信確認用の受領メールに返信する形で、連絡メールを送信しないでください。編集委員会あるいは開拓社宛に投稿・通知する場合には必ず指定されている宛先のアドレスに送信ください。

JELSや所属機関のworking papers等に掲載され

た研究(の一部)を発展させてELに投稿する場合には、論文審査が公平で厳正に行えるよう、関連する投稿者自身のこれまでの研究論文の情報は必ず記載してください。なお、相互に匿名による審査体制であることに留意し、本文等でそれらに言及するときには、3人称表現をご使用ください。

○ EL掲載論文の再録やレポジトリへの登録に関するお願い

ELに掲載された論文の著作権は日本英語学会にあります。そのため、ELに掲載された論文を他のジャーナルや著書に再録する場合には、本学会の許可が必要です。再録をご希望の場合には、日本英語学会事務局あて(elsj-info@kaitakusha.co.jp)お知らせください。

また、各大学で「学術情報レポジトリ」や「電子アーカイブ」にELに掲載された論文を登録することを希望される場合、事務局あてお知らせください。日本英語学会では、発行後4年以上経過した論文の登録をお認めしています。

○ JELS掲載論文の再録・登録に関するお願い

JELS掲載論文についても、再録および学術レポジトリや電子アーカイブへの登録や個人のウェブサイトへ掲載の場合には、EL掲載の論文と同様に、事前に事務局まで(elsj-info@kaitakusha.co.jp)お申し出ください。

JELS掲載論文については、発行後1年を経過したものについては、申し出があれば再録や学術レポジトリなどへの掲載をお認めしています。

○ EL公費購入のお願い

ご所属の大学図書館や研究室でELを購入されていない場合には、ぜひ購入の手続きをしていただきたく存じます。ELがより多くの研究者に知られるだけでなく、本会の運営にも益するところがありますので、よろしく願いいたします。

○ 電子版投稿・審査体制に関連するお願い

研究発表応募、ELへの投稿、および学会賞・新人賞への応募の電子化に伴い、学会から会員の方々に電子メールで連絡いたします。電子版投稿・審査体制の下での学会運営にご協力いただきますようお願いいたします。

なお、事務局あるいは各委員会からメールで連絡を差し上げた際の返信につきましては、通常1週間

の余裕をみてお願いしておりますので、その期間内にご返信をいただけますようお願いいたします。

○ 連絡先等変更のご連絡のお願い

メールアドレスや住所等の連絡先、及び所属に変更が生じた場合には、速やかに学会支援機構にご連絡ください。連絡方法については、学会ホームページをご覧ください。

編集後記

稲田会長のご任期も3月一杯となり、4月から大庭会長のもとでの新体制となります。今年度は、韓国英語学会（ELSOK）との交流合意書の調印、30周年記念大会と様々なことがありましたが、無事に終えることができ安堵しております。関係諸先生方、会員の皆様のご尽力、ご協力で御礼申し上げます。

諸事情により、現事務局長は8月の末まで継続することになりましたが、4月から事務局は一新し(2,3頁を御参照ください)、以下の現事務局書記は任期を終えます。献身的な書記各位の働きに心より感謝しております。どうもお疲れさまでした。

松元浩一氏（大会運営委員会・広報委員会・評議員会担当）

岡部玲子氏・田中公介氏（編集委員会・理事会担当）

廣江 顕氏（財務・国際春季フォーラム担当）

皆様、新事務局もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

（西岡宣明）

2013年2月15日発行
編集・発行 日本英語学会
代表者 稲田 俊明
発行所 日本英語学会
<http://elsj.kaitakusha.co.jp/>
〒113-0023
東京都文京区向丘1-5-2
開拓社内
電話 (03) 5842-8900
